

愛媛県北宇和郡松野町
戦国時代の山城を登る!

かごもり
国指定史跡
河後森城跡
ウォークマップ



河後森城の空中写真

KAGOMORI WALK MAP

注意! 裏面へ

ここからいよいよ河後森城登城です。
城内の見どころについては裏面をご覧ください。



国指定史跡
河後森城跡

堀切川

ひろみ
広見川

いわし
鱒川

【河後森城跡の概要】

河後森城跡は、県内最大級の中世山城で、四万十川支流の広見川、この広見川の支流の鱒川、堀切川の3本の川に囲まれた独立丘陵上にあります。城域は20haを超え、最高所の本郭を中心に大小様々な形態をした多数の曲輪(平坦地)が「U」字形に広がっています。主に石垣を使って城を築く江戸時代以降の城と比べて、一段階古い中世の城は、土づくりの城といわれるように、もともとの地形をつくっている岩盤を切ったり掘ったり、また土を盛ったりすることによって城のとしての防御性を高めているところに特徴があります。

文献からは、16世紀代(1500年代)に土佐・一条氏から養子として河原淵教忠という城主が存在したことがわかっていますが、その後、土佐の長宗我部氏の配下となり、秀吉の四国平定後は戸田、藤堂、富田氏と支配勢力が移り、宇和島藩への伊達氏入封時にも付家老・桑折氏の居城が伝えられています。城の終焉については、一國一城令による元和元年(1615年)頃と推定されます。

アクセス

■鉄道の場合
JR松山駅 → 約1時間30分 → JR宇和島駅 → 約50分 → JR松丸駅
(予讃線特急) (予土線)

■車の場合
松山から高速道路利用で約2時間

駅からたっぷり
河後森城満喫コース
裏面でも詳しくご紹介しています

- ① JR松丸駅前広場 **スタート**
松丸街道の建造物
不器男の句碑
- ② 河後森城駐車場(登城口) 20分/1.12km
風呂ヶ谷の井戸
山菜・薬草の群生
- ③ 西第十曲輪 28分/1.45km
復元建物等の見学
西の大堀切
- ④ 本郭 34分/1.7km
広見川流域(西)と城内の眺望、
石垣や主殿舎の見学
戦国の道を行く
自生モミジの群生
東の大堀切
- ⑤ 古城 40分/1.96km
広見川流域(東)の眺望
自生ツツジの群生
- ⑥ 新城 48分/2.25km
堀切川流域の農山村の眺望
自生ツツジの群生
- ⑦ 東第三曲輪(下山口) 57分/2.55km
自生ヤブツバキの群生
石碑
- ① JR松丸駅前広場 70分/3.16km

※時間と距離はおおよその目安で、①からのものです。

駅から最短距離で④本郭へ登りたい方は、
①⇒⑦⇒④の順路で登城してください。

お願い

河後森城跡を見学される時は、遺跡の保護、火災やゴミの散乱防止、動植物の保護などにご協力ください。

4 本郭の見どころ

本郭は河後森城で最も高い位置にある地点です。ここでは、多くの建物や門の跡を発見していますが、特に目を引くのは中央部分にある主殿舎という城主の居所と、これに伴う台所がみつかったことです。当時は、城主が家臣や住民等とともに飲食をする儀式が盛んに行われていたが、まさにこの主殿舎は、儀式の舞台となった場所です。

このほかにも本郭やその周囲からは大量の瓦が出土し、西側や南側では石垣も確認しています。おそらく河後森城の最終段階である1600年前後には、石垣を備えた天守が存在したと思われます。これを示すように、現在の宇和島城へ天守を移築したという伝承も残っています。

本郭からの眺めは特に開けており、城外の様子や城内構造がよくわかります。

さあ！河後森城散策だ！



本郭虎口付近の道の様子



本郭南側のモミジの群生

注意！表面へ

JR松丸駅、松丸街道、不器男記念館、虹の森公園へは、ここから下山します！（表面のコース図に戻る。⑦⇒①）

5 古城の見どころ

古城は、本郭の東に位置する広い曲輪で、ここでも発掘調査で多数の番小屋や櫓と考えられる建物があり、曲輪の端には板塀を使った防御施設の存在がわかりました。番小屋にはかなり大型のものもあり、攻めてくる敵に対して兵がそなえ、迎撃準備を整えていたと推定されます。

古城の西側には、曲輪を分断する堀切があります。これは城内で最大の幅を持つ施設で、堀の底は道として利用されていました。数段階にわたる門の跡が見つかったことから、何度も虎口（出入口）の改修が行われていたことがわかります。

古城からの城外へ目を向けると、広見川の流域や周辺の支城の様子を眺めることができます。



古城から見える支城



堀切の様子



本郭からの景色



本郭虎口の石垣の様子

3 西第十曲輪の見どころ

西第十曲輪は、城の最高所の本郭からみて西側の端の地点にあたります。発掘調査では曲輪にあがるための道や門の跡を発見しており、中央には馬屋と想定される建物があったことがわかっています。また、周囲には土を盛り上げた土塁があり、その外の斜面には人工的な崖である切岸がめぐっています。山の尾根筋のまわりには深い溝である堀切や竪堀も連続して設けられていました。ここではその様子を可能な限り復元的に整備しました。

西第十曲輪では、生活にともなう出土品も多く、馬屋があることから、当時のくらしがわかるのと同時に、土塁・切岸・堀切・竪堀という防御施設が発達していることから、山城での戦いの最前線として使われていたことがわかります。

【用語解説】

- 曲輪（郭）…山の稜線上や斜面にある平たい部分のこと
- 土塁…土を盛り上げて作った防御のための施設



井戸の様子



西第十曲輪の発掘調査の様子



西第十曲輪の整備状況



新城から見える城内の様子



新城の自生ツツジの群生

6 新城の見どころ

新城は河後森城の南の端にあたる地点です。中央に楕円形をした曲輪があり、その周囲には帯曲輪という細長いハチマキ状の曲輪がめぐっていることが特徴です。中央の曲輪は発掘調査を行っていますが、その結果、見張り用の高層の井楼櫓があり、周囲に土塀をめぐらせていることがわかりました。また、周囲の斜面にも急傾斜の切岸、多数の堀切や竪堀が設けられており、特に防御に力をいれた曲輪であったことがわかります。

新城からは、当時の土佐方面からの進軍ルートである南側に開けた堀切川流域の景色をみることができます。また、城内に目を向けると、特に西第十曲輪から本郭へと階段状に続く曲輪の連続を見ることができます。

【用語解説】

- 切岸…岩盤を人工的に削って急傾斜とした崖のこと
- 堀…岩盤を掘り抜いて溝のようにした防御のための施設で山を登る方向に対して垂直方向にあるものを堀切、平行に掘られたものを竪堀という。



2 河後森城駐車場

現在地